

三重執鬼(本社「三重県鈴鹿市、寺田社長)は、健康経営の新たな取り組みとして、ストレスや生活習慣病を日常的にチェックできる「健康測定機器」を導入し、従業員相互の心身を気遣い、「年間長期休暇ゼロ」を目指している。

### 三重執鬼

200人以上が在籍する同社はこれまで、従業員の採用に大きな労力を要する一方、病気やケガ、心身の不調などによる長期休暇、休職を余儀なくされていた。従業員の健康課題を解決し、物流現場での事故防止と安全輸送に徹するために

## 従業員の健康課題解決へ

### 健康測定器導入 疾病に早期対応

未病の段階で不調を発見し早期対応を図る測定器



は、未病の段階で心身の不調を発見し、早期対応を図ることが必要と考えた。

導入した機器は、脳神経系や血液循環の状態を測

定する。理学療法士による運動支援プログラムの導入、昨年5月にはフィットネス度を基に運動習慣を身につけることを目的とした「脳トレ」の。いつでも空き時間に使えるよう、休憩室に設置し、従業員の未病指標のモニタリングを通じて、日常的な健康管理と疾病の早期対応を促す環境を整備した。

同社では、健康診断100%実施の維持、長時間労働の改善と勤怠管理の強化、配送スケジュールの最適化、業務割の当りの見直しを行い、フレックスタイム、パート勤務併用など多様な勤務体系に対応してきた。

併せて、福利厚生の一環として、スポーツクラ

ブへの優待利用制度に加え、昨年5月にはフィットネスクラブの運営に参入し、従業員のみならず地域への健康づくりの場を提供している。

寺田社長は、「健康測定器を通じ、互いの体調について声がけする社内コミュニケーションの活性化につながっている。健康経営の取り組みで長期休暇者ゼロを目指す一方、全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、くらしと経済のライフレインとして、地域社会に貢献する経営理念の実現のためにも、健康経営の考え方が社会全体に広がることを願う」と、自社の方向性を示している。